

Ready Set Go!

よーい
どん!

特集

主体的・対話的で
深い学び

Tips for Activities!

～やってみよう 英語活動～

こんなふうに！ 校内研修



「主体的・対話的で深い学び」とはどんな学びか

2020 年度から実施される新学習指導要領では、外国語をどのように学ぶかが規定されています。キーワードは「主体的・対話的で深い学び」。では、この学びを実現するために、実際の指導にあたってはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。信州大学の酒井英樹先生にうかがいました。

はじめに

移行期間に新学習指導要領の趣旨をよく理解し、全面実施に備えることが求められます。移行期間の 2 年目となりました。準備は進んでいるでしょうか。

今回の改訂の特徴の一つに、学習指導要領が「どう学ぶのか」という点まで踏み込んで作成されている点が挙げられます。「踏み込んで」と表現したのは、従来、学習指導要領とは目標と内容を示すものであり、どのように学ぶべきなのか、あるいはどのように教えるのかということは学校や教師に委ねられていたものだからです。学習指導要領で言及された「学び」とはどのようなものなのでしょうか。本稿では、どう学ぶのかという点に焦点をあてて、新学習指導要領の趣旨の理解の一助になればと思っています。

外国語教育における学習過程

外国語教育における「学び」はどのように示されているのでしょうか。外国語教育における学習過程として、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』には、次の 4 つのプロセスが示されています。

- ①児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

この学習過程は、主体的・対話的で深い学びの実現のために重要になります。

主体的な学びを実現するには、児童がコミュニケーションをおこなう目的などをきちんと理解し、「やってみたい」「学んでみたい」という高い意欲を持つことが求められます(①の段階)。また、与えられた活動を受け身の姿勢でおこなうのではなく、どう学んでいくのかということを自ら構想することも重要です(②の段階)。さらに、最後には学習全体を振り返って、自らの学びが上手くいったのか、そうでなかったのかを考え、上手くいったことに関しては次の学習場面においても活用しようしたり、上手くいかなかったことについては良くなるように課題意識を明確に持ったりすることが大切です(④の段階)。

対話的な学びの実現のためには、対話を通して学べるような

言語活動をするのが重要となります(③の段階)。コミュニケーションをただおこなって終わるのではなく、教師や友だちなどの英語を聞いたり、英語でやり取りをしたりすることを通して、英語の音声、語彙、表現など、コミュニケーションを図る資質・能力の知識・技能の側面に気づき、自ら取り入れることで、対話的な学びが実現します。また、目的や場面、状況などに応じた内容の整理の仕方や組み立て方の工夫など、コミュニケーションを図る資質・能力の思考力、判断力、表現力等に関わる側面に気づくことによって、自分の考えを見直し、自分の伝えようとする内容や方法を変えるといった学びもあります。対話を通じた学びを確かなものとするために、言語面や内容面でのまとめや振り返りが重要となるのです(④の段階)。

深い学びとは、「知識及び技能」に関わる資質・能力を、思考力や判断力、表現力などを働かせて活用することによって、断片的な知識や技能だけに終わらせない学びをすることです。その実現のためには、児童が、コミュニケーションをおこなう目的や場面、状況等をしっかりと理解して、考えを巡らせながら言語活動をおこなえるようにすることが重要です(①の段階)。また、持っている知識や技能を総動員して、目的・場面・状況に応じて活用することが求められるようなコミュニケーション活動をおこなうことが求められます(③)。

それでは、この外国語教育における学習過程は、小学校学習指導要領自体にはどのように書かれているのでしょうか。

小学校学習指導要領の中では

今回の改訂によって、どの教科等においても目標の記述は基本的に同じ書き方となっています。第 1 の要素は、教科特有の見方・考え方を働かせながら育成することです。第 2 の要素は、教科特有の学習過程を通して育成することです。第 3 の要素は、教科等で育成すべき資質・能力です。外国語活動や外国語の目標はどう書かれているのでしょうか。ここでは、外国語の目標を取り上げましょう。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(下線筆者)

「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して」資質・能力を育成すると書かれています。なお、

「言語活動」とは、言語材料を理解したり練習したりする「学習活動」ではなく、自分の考えや気持ちなどを伝え合うなどのコミュニケーションをおこなう活動のことです。この下線部に書かれているのは、外国語教育における学習過程のうち、核となる③の段階であると言えます。外国語活動・外国語においては、言語活動を実施しながら、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することが、学習指導要領の目標の中で明示されていることがわかりいただけたと思います。

さらに、次のように書かれています。

(カ) 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

(小学校学習指導要領 第2章第10節外国語
3 指導計画の作成と内容の取扱い (2) 内容の取扱い)

これは内容の取扱いの留意事項の一つとして書かれたものです。「目的、場面、状況などを明確に設定し」、「児童が学習の見通しを立てたり」、「言語活動」をおこなったり、「振り返ったり」することは、外国語教育における学習過程を反映したものです。

指導のポイント

外国語教育における学習過程を活かして、主体的・対話的で深い学びの実現を図るためにはどうしたらよいでしょうか。指導のポイントを5つにまとめます。

ポイント① 単元を意識しよう

前節で示した内容の取扱いでも書かれていますが、外国語教育における学習過程を実現するのは、各授業だけでなく、単元という長いスパンの中でも意識することが重要です。たとえば、単元を通して、「お互いのヒーローを知り、友だちをもっと理解し仲良くなりたい」と児童が願ったとします。最終的にヒーローを紹介するには、第三者の得意なことを伝え合ったり、職業を紹介したりできる必要があります。また、ヒーローは人によって多種多様ですから、友だちや先生、家族、芸能人、スポーツ選手などを紹介できたら、ヒーローを紹介することができるようになって感じるができます。このように学びの見通しを立てながら、本時は「先生のヒーローを聞いて先生についてもっと知ろう」などといった目的を共通理解するようにします。

ポイント② 児童の意欲に基づいて 目的を設定しよう

「ランキング予想をしよう」、「クイズ大会をしよう」などと、教師がコミュニケーションをおこなう目的や場面、状況を一方的に与えるのではなく、児童の意欲や目的意識を大切にしてい

くことが重要です。たとえば、児童は「夏休みの出来事を紹介し合う」のではなく、「ALTの先生のもっとも思い出深い夏休みを知りたい」や「週末の出来事を紹介し合いたい」と願うかもしれません。その思いを大事にして「目的」を設定すれば、主体的な学びを図るのに役立ちます。コミュニケーションをおこなう目的は、与えられるものではなく、児童が持つものであると意識することが大切です。

ポイント③ 一つひとつの活動の意義を 意識させよう

言語活動や学習活動は、なぜおこなう意味があるのかを児童にもわからせるようにしましょう。チャンツやジングルをおこなうことによって、単語を覚え、やり取りの際に使えるようになるという活動の意義を理解すれば、意欲的に取り組むでしょう。さらにその効果を実感できれば、次の単元においても見通しを立てながら主体的に学ぶことができます。

ポイント④ 対話的な学びのある 言語活動をおこなおう

対話の中でさまざまな気づきを通して、「知識及び技能」(言語)の側面や「思考力、判断力、表現力等」(内容)の側面で学ぶことができるはずです。その学びを確たるものとするために、児童の気づきを価値づけ、言語活動の途中で中間評価として取り上げて、クラス全体に広げたりすることが重要です。また、授業や単元の終わりには、言語や内容の点からまとめや振り返りをおこなうようにしましょう。

言語活動の際には、知識及び技能を、コミュニケーションをおこなう目的や場面、状況等に応じながら活用させるようにしましょう。これは「深い学び」の点から重要です。

ポイント⑤ 主体的・対話的で 深い学びを省察させよう

振り返りの際、「よくできた」「楽しかった」だけではなく、主体的・対話的で深い学びをしているという自分自身の学びを自覚させることが重要です。学びの効果を実感している姿があればクラスで取り上げ、次の単元で見通しを持つ際に活かしたり、課題を意識している児童がいれば、励ましを与えて次の学びにつながるように導いたりしましょう。

酒井 英樹(さかい ひでき)

信州大学教授。テンプレ大学大学院博士課程修了。教育学博士。専門は英語教育学、第二言語習得。中学校英語教科書 NEW CROWN 編集委員。著書に『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』(共著、三省堂)、『小学校外国語活動 基本の「き」』(大修館書店)、『小中連携を意識した中学校英語の改善』(共著、三省堂)がある。



児童が自ら「思考」「判断」「表現」する授業を！

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、児童が単元の見通しをもって目標を定めること、児童の意欲を大切に「言語活動」を設定すること、学習の最後には自らの学びを振り返る機会を設けることが大切だとわかりました。では実際に、どのように授業を展開すればよいのでしょうか。神戸市外国語大学の横田玲子先生にうかがいました。

1. はじめに

新学習指導要領のポイントを考慮した実際の授業計画を *We Can!* 2 のユニットを使って具体的に考えてみましょう。

担任が授業するにしても、英語専科（専任）が授業するにしても、授業計画を考える上で大切な前提があります。改めて言うことでもないじゃないか、と思われるかもしれませんが、以下の2点に集約できるのではないかと思います。

1. 子どもたちが間違っても笑われることなく、安心して英語を話せる環境を作ること。
2. 失敗だ、間違った、と思っても、粘り強く挑戦していける支えが常にあることを子どもたちが知っていること。

これらのことは1回、2回の授業実践で可能になることではなく、1年かけてクラスを、そして子どもたちを、英語の授業の中で育てていくことといえます。1については、「協働」が可能なクラスを作ること、子どもたちの思考はさらに広がります。また2については、教師の「温かい受容と共感」が必要になります。それらのことがまず授業づくりの前提にあることを確認して具体的な授業を考えてみたいと思います。

授業づくりの具体例

ここでは *We Can!* 2, Unit 7 “My Best Memory” を題材に考えてみましょう。このユニットでは、6年間の学校生活を思い出し、強く心に残った行事を、過去形を使って表現することになっています。学校行事についてはどの学校でも共通しているものが英語で紹介され、それらの英語の名称を学習し、さらに自分の中ではどの行事が My best memory になるかを考えて、ユニットの最後にアルバムを見せながら伝え合う、という形にまとめられています。この単元は8時間扱いで、さまざまなリスニング活動や他国の子どもの Best memory をデジタル教材で視聴することもできます。

ポイント①「単元の入口と出口」

授業づくりでポイントになるのは「入口」、つまりどのように導入するかと、「出口」、すなわち単元の最後をどのような形にするかです。教師の心づもりの中に単元の「出口」のイメージがあって初めて、「入口」の導入の工夫を考えることができます。このユニットでは、単元の最後はアルバムを見せて伝え合う、と指導編には書かれていますが、子どもたちの状況の中でどの

ようなことが可能で、どこまでなら協働の場面を作りつつ「出口」を設定することができるかを考えなければなりません。

「出口」の「伝え合う」はペアワークでおこなうのか、グループ内での「発表」にするのか、または、クラスの前での発表にするのか等、いろいろな形が考えられます。クラスでそのどれかをイメージするわけですが、ここでさらに大切なのは、「出口」は「子どもたちと共有できる」ことが必要で、さらに「子どもたち自身がこの単元の仕上げはこういうことをやりたい！」と思え、そのための仕掛けのある入口を創る」ということです。子どもたち自身が望む「出口」の形であってこそ、そのプロセスを子どもたちは本気で学び進めることができるのです。

「入口」の工夫としては、「*We Can!* のここをやるよ!」ということばかけと同時に、子どもたちを巻き込むなんらかの手立てを用意することが有効です。難しいことのように思えますが、たとえば同僚の教師、あるいは管理職の教師2、3人に協力していただき、デジタルカメラの動画モードでサッと短い動画を作り、子どもたちに見せるのはどうでしょう。もちろん、協力していただく準備はしなくてはなりませんが、以下のような文章4つを用意して、それをカメラに向かって言ってもらって一つ一つの教材になります。

- (1) My best memory is the school trip. We went to Oji Zoo. I saw many animals. It was fun.
- (2) My best memory is P.E. lessons. We played many games. I like sports. I was happy.

これらの文章を少し練習していただき、できれば簡単に描いたイラストの紙を用意し、それを見せながら文章を言ってもらってカメラに収め、それを見せて子どもたちへの導入とします。

教師が「校長先生、何が思い出深いって?」「何をしたんだって?」と子どもたちに尋ねれば、子どもたちにとっては学校内の身近な教師も英語を話すこと、そして実際に自分たちが話しかけられていることを実感しながら聞くことができます。もちろんデジタルカメラでの動画ではなく、実際に教室に来て話していただければ、それはとても素敵なことです。英語の授業というと、どうしても高学年の担任の教師の負担が増える、と考えがちですが、学校全体で中・高学年の英語を支えよう、という一つのアクションにもなります。

さて、そのような導入（入口）のあと、実際に *We Can!* の紙面を見ながら、その仕上げ（出口）は何をしたいか、子どもたちの意見を聞くが必要になってきます。今までの英語教

育は、入口も出口も教師のコントロールの中でおこなわれることが多かったですし、これからそうかもしれません。しかし、どういう形でこの単元を仕上げるか、子どもたちと考えて創り上げることは、時代の要請でもある「主体的な学び」を促すとともに、「学びに向かう力」を養うことにつながります。仕上げる形のイメージを子どもたちと共に創りながら、単元を進め、2時間程度終わったところで、「出口」の形をはっきりさせることを目指すとういと思います。「今学習している新しい英語のこたばを使って最後にはこんなことをするんだ！」というところまで子どもたち自身が考えられる指導、ということです。進めていく授業のプロセスが子どもたちの中でははっきりと意味のあるものになるはずです。

ポイント②「慣れ親しみ」への工夫

「出口」が「やり取り」なのか、それを含めた「発表」なのか、いずれにしても、「出口」に向かって子どもたちは「何を言おうか（内容）」「どう言おうか（英語）」を思考し、判断していくことが必要になります。過去形は *We Can! 2 Unit 5* でやっているのですが、Unit 5 のどの表現が使えるのか教師が示すより、子どもたちが「協働」で見つけ出せるとよいと思います。最初に提示する簡単な動画を作成し、その動画に基本的な表現を組み込ませておけば、子どもたちはそれほど迷わずに自分が使いたい表現を既出表現から引っ張り出してくることが可能です。

次の段階として、言いたいことが言えるようになるための「慣れ親しみ」が必要ですが、この部分が不十分なまま「出口」を迎えることのないように配慮する必要があります。*We Can!* のリスニング活動で何を言っているかを理解させるだけでは、子どもたち自身が言いたいことを言えるレベルにはたどりつきません。ではどうしたらいいのでしょうか。なんらかのゲームがいいのではないかと思います。子どもたちがすでに言いたいことを思い描けているのであれば、共通して使える表現、たとえば、*My best memory is We went to I saw* といった文章でチャンツを作ることはどうでしょうか。Unit 5 の最初のページのチャンツ (Summer Vacation) を音声と文字を消してリズムだけにして、実際に自分たちが言いたい文章でのチャンツを工夫している先生がおられました。どんな文章でも既出のチャンツを利用できるわけではありませんが、リズム感を持って練習する、という部分がポイントでしょう。スク립トを作って「覚える」よりもチャンツを利用して「音声として身につける」ほうがよいのではないかと思います。

また、自分が言いたいことは、たくさん、それもかなり細かい部分にまで及んでいて子どもたちの英語力ではとても無理だ、ということがよくあります。たとえば、「1年生の入学式がベストメモリーだけど、あのとき桜が満開で、その下を通ってお母さんに手をひかれながらもすごく不安な気持ちとわくわくした気持ちと、ドキドキしていたことがわすれられない！」といった場合です。言いたいことの気持ちを膨らませることは本当に

大切です。しかし、それと同時に、自分が使える英語表現で友だちにわかってもらうにはどうしたらいいだろうと考えさせることも大切です。「せっかく言いたい思いが十分に膨らんだのに、英語では言えない！」と思うことがないように、たとえば、教師の側からの問いかけで、子どもが言いたいことの中心を自分で明らかにしていく手助けができます。

教師：What's your best memory? Where did you go?

児童：My best memory is the entrance ceremony.

I went to school with my mother.

教師：What did you see?

児童：I saw cherry blossoms.

教師：How was it?

児童：It was beautiful.

I was nervous, but I was excited.

上記のようなやり取りにまとめられ、さらに付加する内容はジェスチャーやイラストで工夫できることを伝えます。

子どもたち自身が言いたいことを「思考」し、「判断」してこそ、「表現力」を向上させることにつながります。35人が同じ文章を練習して発話できたというのではなく、またAとBに分かれてモデル文型を練習するとしてもその先に「自身の表現」を創り出し、それに「慣れ親しむ」時間を作って実践してこそ、「やり取り」へ、また「発表」へとつなげることができます。

ポイント③子どもにとって意味ある「情報」「場面」「相手」

いよいよ最後は子どもたちと共に設定した「出口」です。英語での「やり取り」「発表」が、たとえ日本人同士であっても、知らないことを知ったり自分との共通点や相違点を発見したりしながら「人」とかかわる機会を創出すること、相手を思いやりながら話したり聞いたりする、そういったことを楽しみつつ、そこに価値を見出す気持ちを育てることを英語の授業の中で育てていくことが大切です。教師がコントロールする場面もちろん必要ですが、子ども自身が「思考」し、「判断」し、「表現」していくことをくり返し経験してこそ、子どもたちの英語の世界は広がります。また、ことばは一人でのつぶやきではなく、友だちと一緒に使ってこそ楽しいこと、失敗してもまた次のチャンスに挑戦できること、自分が言いたいことが言えてうれしい！楽しい！伝わってうれしい！わかって楽しい！そのような経験を積み重ねていける授業の工夫で、きっと英語の時間は今までよりもわくわくしたものになり、「生きる力」への大きな一歩になるでしょう。

横田 玲子(よこた れいこ)

神戸市外国語大学大学院 教授
公立小学校教諭9年を経て渡米。アリゾナ大学でPh.D.取得後帰国。私学小学校教諭を経て現職。各地の小学校英語の教員研修に携わる。



Tips for Activities!

児童に負荷をかけることなく文字の形を認識させ、名称読みと音読みに触れながら文字の音に気付かせる活動。アルファベットのポスターやカードさえあれば短時間で簡単にできる楽しいアクティビティを、ここではご紹介します。



「短時間で楽しくおこなう音付き文字指導活動」

使用するもの

- アルファベットの大文字・小文字カード
- アルファベットポスター
- 絵カード



手順

A. 文字の認識と名称読み

1. ABC ソングをみんなでくり返して歌います。黒板に掲示されたポスターあるいはカードを先生が指し棒などで示すといいでしょう。
2. メロディーにのせ楽しく何度か歌った後は、デジタルの音源を使い、文字の名称読みを一度確認しておきます。
3. 日直の児童を前に出して、指し棒で文字を示させたり、逆から歌ったり、あるいはバラバラに並べたカードの順に歌ったりと、字形を認識しながら歌う活動をバリエーションをつけておこないます。
4. 班活動として、1 セットの大文字カードを使い、協力しながら A から Z、次は Z から A の順番にカード並べをします。また、先生が出すお題に従ってそのカードを抜き出したり、2 グループに分けたりし、そのカードのアルファベットをみんなで声を出して言います。

例 字形が直線だけのものとそうでないもの
左右対称のもの
班の児童の名前に入っているもの
身の回りでよく目にするもの (CD, TV など)
名称読みの中にイーという音が入っているもの (BCD EGPTVZ)

5. カードを裏返しに積み上げたものを一人ずつ取って名称を言います。次に、全員でアルファベットの順にカードを 1 枚ずつ言いながら出して並べます。あるいは、Z から A の順番に並べていきます。
6. 小文字の導入には大文字と同じ歌を使ってもいいですが、ICT 音源からジングルを使ってもいいでしょう。そのあと、班活動で大文字・小文字カードを使っの神経衰弱やババ抜きなどのカードゲームをします。

B. 音から文字へ

1. 小文字のカードを黒板に a ~ z まで貼って、児童になじみのあるアルファベットジングル (動物あるいは食べ物) を音源で流し、言えるところは一緒に言うように促します。

2. クラスを 2 つにわけ、先生が言う名称 (例えば b) に対して、/b/, /b/ と音を言うチーム、bear とキーワードを言うチームに分け、児童に音声でなじみのある語をいくつか選んでリズムカルに言わせてみます。この場合、アルファベットだけが書かれたカードでなく、絵のついたカードがあれば、音への気付きに一步手前の子も、絵をヒントに言うことができるでしょう。
3. 上記の活動を、今度はペア活動としておこないます。一人の児童が手元においたチャートを指さして d と言えば、相手の子は /d/, /d/, dog というようにし、3 つ言えたら交代します。
4. 先生は 3 枚の絵カードを児童に見せます。児童はカードに描かれたものの単語に共通する文字をペアで相談し、チャート上のその文字を指さします。

例 bed/bag/ball dog/donut/dish pen/piano/pizza

注意点

- ・聞こえたアルファベットの名称から文字がわかる段階から、文字を認識して名称が言えたり、音と文字の関係に気付くようになるまでの丁寧な指導を心がけます。
- ・ゲーム性が先行しないように目的をしっかりとって取り組むようにします。



Teacher Talk

It's not a race! Let's help each other.

OK? (レースじゃありません。協力してしましう。いいですか?)

What's the letter? (文字はなんでしょう)

What's the sound? (音はなんでしょう)

田縁 眞弓 (たぶち・まゆみ)

ノートルダム学院小学校英語科スーパーバイザー、京都教育大学連合教職大学院非常勤講師。小学生への文字指導、絵本を使っのストーリーテリングなどの教員研修をおこなう。



こんなふうに！ 校内研修

教科としての外国語教育開始まで、いよいよあと1年。指導技術や英語力をさらに向上させていくためにはどんな研修をしたらよいか、別府大学短期大学部の大田亜紀先生にうかがいました。

研修を通して小学校教員の指導力向上 ～少しずつ確実に！～

小学校高学年に外国語活動が導入され、約10年が経とうとしています。外国語を指導するにあたって必要となる指導技術や英語力等、多くの小学校教員は不安を抱えながらも、指導の充実のため研修等を通して指導力を高めてきました。新学習指導要領全面实施を目前にし、また新しい小学校外国語教育が始まろうとしています。小学校教員の「不安、再び」の声が聞こえてきます。焦りは禁物。これまでの成果や課題を踏まえながら、小学校教員が研修を通して少しずつ、でも確実に力をつけていくことが大切です。小学校外国語教育の充実には、小学校教員の指導力向上が必須です。

授業を通して、全員参加型で学ぶ校内研修

一番効果のある学びは、「指導案を作成し、授業をおこなう」ことです。実際に授業を創りながら、ねらいに即した活動や子どもの姿、授業イメージをつかむことができます。校内研修ではぜひ公開授業を伴う研修会を実施し、指導力アップを図りましょう。

公開授業の指導案審議や授業参観後の協議会では、参加者全員の声がほしいところです。校内研修は、全員で学ぶ場合だからです。研修の進め方には、既に各校でさまざまな工夫をされていると思いますが、次のような方法をお勧めします。授業後の授業整理会では、協議の柱をもとにして、付箋紙に本時の成果や課題等を書いて整理したり、本時の課題から改善案（本時の改善案、次時の授業案等）をグループで考えたり等、全員参加で学ぶ校内研修を推進



しましょう。ALTやJTEが研修に参加できる場合は、模擬授業を通して教室英語を使った授業の進め方を体験することで、指導への不安意識の軽減につながるでしょう。

校内環境の整備 ～いつでも活用できる場づくり～

学校施設により差がありますが、“English Room”などの外国語を学ぶ特別教室等があると、部屋に入った瞬間に英語スイッチを入れることもできます。電子黒板やデジタル教材がすぐに使える環境があったり、絵カード類がいつでも使える状態で保管されていたりすると、活動の充実が図れるだけでなく、準備時間の短縮や指導不安の軽減にもなります。夏季休業等の校内研修の時間を活用し、「校内環境整備」を全職員で協力しておこない、いつでも活用できるようにするとよいでしょう。

今あるものを活用して研修を！

校内研修を実施するにあたって、研修担当者にはその研修準備のために多大な時間と労力が必要となります。また研修時間も大変限られており、十分な研修時間の確保も難しいところです。文部科学省作成の『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』は、基本編、授業研究編、実践編、実習編、理論編、研修指導者編で整理されており、大変参考になります。また、独立行政法人教職員支援機構のホームページでは、校内研修での活用のための20分程度の講義動画「校内研修シリーズ新学習指導要領を具現化した新教材の解説」（校内研修シリーズ No. 34）も提供されています。このような研修で活用できる校内研修のためのパッケージ資料は、全国教育委員会や教育センター等でも準備され、学校支援をおこなっています。

限られた時間です。学校現場のために提供されている研修資料を活用し、それぞれの学校の実態に合わせた校内研修に、ぜひ取り組んでみてください。

大田 亜紀(おおた・あき)

別府大学短期大学部 初等教育科 准教授。
福岡県公立小学校教諭、福岡県教育センター指導主事、公立小学校教頭を経て現職。



小学校低学年から高学年まで 三省堂は英語辞書でトータルサポート!

英語活動の楽しさいっぱい!

小学英語のはじめの一步は **キッズクラウン!** オールカラー

キッズクラウン英和辞典 新装版

下薫・三省堂編修所【編】 A5判・304ページ・1,900円・音声CD1枚付き

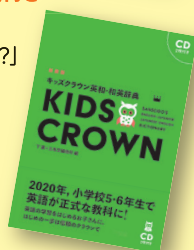
👑 楽しいイラスト満載で、子どもの日常にぴったりの英語表現を多数紹介。約2400項目収録。音声CD付き。身につけた英語の「音感」を崩さずに文字学習へとつなげるチャンクを活用。



キッズクラウン和英辞典 新装版

下薫・三省堂編修所【編】 A5判・288ページ・1,900円・音声CD1枚付き

👑 小学校での学習に十分な約3500項目を、発信に役立つ用例とともに収録。話す練習もできる音声CD付き。「これ、英語でなんて言うの?」と思ったらすぐに自分で調べるアクティブな学習習慣を。



キッズクラウン英和・和英辞典 新装版

下薫・三省堂編修所【編】 A5判・568ページ・3,400円・音声CD2枚付き

👑 英和と和英を1冊にまとめた便利な合本。

まいにち引いて、辞書のしくみになれよう!

中高につながる辞書引きは **ジュニクラ!**

ジュニアクラウン小学英和辞典

三省堂編修所【編】 B6変型判・2色刷・544ページ・1,500円

👑 約7千項目を収録、小学英語語彙(ごい)をしっかりカバー
👑 中学教科書学習語に[中]、英語力の新基準CEFR-J[A1][A2]ロゴマーク付き
👑 基本動詞エッセンスページで中高につながる基礎固め

ジュニアクラウン小学和英辞典

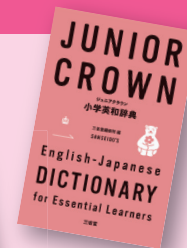
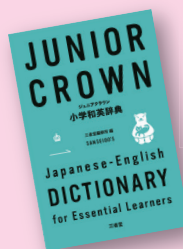
三省堂編修所【編】 B6変型判・2色刷・448ページ・1,500円

👑 約8千項目を収録、小学英語語彙(ごい)をしっかりカバー
👑 基本動詞を中心とした表現に役立つ「基本形」コラム満載

ジュニアクラウン小学英和・和英辞典

三省堂編修所【編】 B6変型判・2色刷・992ページ・2,500円

👑 英語⇄日本語の辞書引きによる学習をさらに深められるお得な合本



三省堂教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp>

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町 2-22-14 TEL (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)

●大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3 TEL (06) 6341-2177
●名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-21-31 協和丸の内ビル 2F TEL (052) 953-9211
●九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 TEL (092) 531-1531
●札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F TEL (011) 616-8722